

# 平成 26 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 26 年 6 月 29 日（日） 13 時 10 分～14 時 10 分

場 所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）（学術集会第 1 会場）

議 長：百瀬由美子

報告者：理事長 堀内 ふき

副理事長 正木 治恵

理 事 太田喜久子 大塚真理子 亀井 智子 北川 公子 酒井 郁子

真田 弘美 諏訪さゆり 田高 悦子 水野 敏子 山田 律子

湯浅美千代

監 事 泉 キヨ子

記 録：杉山 智子（会員） 吉田 妙（事務センター）

## 1. 開会の辞

湯浅理事より、会員数 1,505 名のうち、委任状 583 通、出席者 76 名であり、会則 19 条に則り総会として成立している旨の報告があり、開会が宣言された。

## 2. 議長選出

議長選出にあたり、慣例により百瀬由美子第 19 回学術集会長が選出された。

## 3. 報告事項

### 1) 理事会、評議員会報告

堀内理事長より、資料 1 を基に、平成 25 年度の主な活動内容等について、以下のとおり報告があった。

(1) 学術集会の準備：第 19 回学術集会は、百瀬学術集会長のもと企画委員会が準備を進めた。第 20 回学術集会は日本老年学会（第 29 回日本老年学会総会）との合同企画であり、平成 27 年 6 月 12 日～14 日にパシフィコ横浜での開催に向け、学術集会長正木理事が準備を進めている。第 21 回学術集会長に桑田評議員が推薦され、東京近郊での開催を予定し、会場・企画の準備を進めている。第 22 回学術集会は日本老年学会（第 30 回日本老年学会総会）との合同企画、名古屋市での開催であり、学術集会長に鈴木評議員が推薦された。

(2) 地域ネットワークの検討：評議員へのアンケート結果では、各地域の状況がさまざまであり、連絡手段についても意見が分かれたため、百瀬理事を中心に東海・北陸地区をモデルとし、評議員と共に実施可能性を検討した。平成 26 年度も引き続き検討を継続する。

(3) 各委員会の会計事務委託：委員会会計の事務および生涯学習支援委員会の各研修についての事務を学会事務センターに委託し、運営をスムーズにすることで委員会活動の活性化を図った。

(4) 他学会、協議会等との連携の推進：①ELNEC-JG [アメリカの ELNEC (The End-of-Life Nursing Education Consortium)・高齢者カリキュラムの日本の老人看護版] について、作成者である老人看護専門看護師らからの依頼があり、ELNEC-J の運用をアメリカ本部と行っている

日本緩和医療学会の承認を受け、同学会との共催で本学会が運用することとなった。②日本老年学会は、甲斐理事長に交代し新体制となった。今後、法人化や会費値上げ等、新たな方針での活動が予定されている。本学会もさまざまな委員会に参加し、協力している。③日本看護系学会協議会との連携では、「科学研究費補助金の細目表」検討依頼に対し、研究・教育活動推進委員会が行った会員へのアンケート結果を基に意見を述べた。その他、提供を受けた情報をメールマガジン等で会員に伝えている。④看保連・三保連との連携では、老年看護政策検討委員会により、診療報酬改定の提案書について協力している。⑤その他、自殺予防総合対策推進コンソーシアム設立準備会、認知症医療介護推進会議、日本学術会議の若手研究者ネットワークに、理事・監事・評議員の協力を得て参画している。

(5) 日本老年看護学会学会誌関係の電子化：学会誌編集に関して、オンライン投稿・査読システムが構築された。また、論文表彰にあたり、オンライン審査システムを構築した。CiNiiでの電子化が終了予定であること、他のデータベースからの電子化での公開要請、各大学での学術リポジトリの推進を踏まえ、今後、本学会誌の電子化での公開方法について検討を進めていく。

(6) 法人化に向けての検討：法人化について、利点等を考えながら検討を進め、平成27年度学会総会までに方向性を示し、報告したい。

## 2) 総務報告

北川広報担当理事より、資料1を基に、現在の会員数が1,505名である旨の報告があった。また、総務(理事会の運営等)、庶務(会員の入退会に関する会員管理ならびに委員会規定の検討準備、名誉会員選出内規整備、理事会の準備・議事録作成)、会計(学会の予算全般の管理および平成25年度決算)、広報(メールマガジン1~16号発行、学会誌第18巻1・2号に会報掲載、学会ニュース22号発行、今後会員専用サイトを構築予定)の活動内容についてそれぞれ報告があった。

## 3) 委員会等報告

湯浅庶務担当理事より、資料2を基に、各委員会の活動内容等について、以下のとおり報告があった。

### (1) 編集委員会

①第18巻1・2号を発行し、第19巻1号の査読中である、②第19巻2号および第20巻1号(記念号)において20周年を記念した特集企画を検討中である、③学会誌の発行時期を第20~21巻にかけて調整し変更予定である、④投稿規程および論文種類を改訂し、論文種類の「研究ノート」を廃止し、「原著」に統一した、⑤第19巻1号より、電子投稿・査読システムの運用を開始した、⑥投稿論文の査読において、査読アドバイザー制度を導入した。

### (2) 研究・教育活動推進委員会

①平成26年6月27日(金)にワークショップ「老年看護学研究における実践者と研究者との協働；介護施設での研究実践例から考える」を開催した、②若手研究者の研究活推進ならびに老年看護学の研究発展のために平成25年11月に「本学会会員における研究費申請・獲得に関する実態調査」を実施した、③日本看護系学会協議会からの「科学研究費補助金の細目表」検討依頼に対し、上記②の調査結果を踏まえて、細目「高齢者看護学」のキーワードとして、「認知症看護学」「エンドオブライフケア」「継続・連携看護学」の追加を要請、「時限つき分科細目表」についても「高齢者・障害者犯

罪学」「ソーシャル・クオリティ」の 2 領域の採用を要請した、④本学会誌に上記②の調査結果について投稿予定である。

### (3) 老年看護政策検討委員会

①診療報酬・介護報酬化に向けた「医療技術評価提案書」について、2013 年 5 月 27 日に看保連に「COPD 在宅酸素療法患者へのテレナーシング(遠隔看護)技術」提案書を提出した、②次期診療報酬化の提案書作成のためのエビデンスの評価について、入院している認知症高齢者へのチーム医療を提案するために「神経認知障害(認知症)入院高齢患者へのチーム医療の有効性の評価について」「神経認知障害(認知症)入院高齢患者へのチーム医療の実態について」の 2 側面から調査を行い、準備を進めていく予定である。今後は、学術誌や学会発表で結果を提示していきたい。

### (4) 国際交流委員会

平成 25 年度の活動について、①第 18 回学術集会における交流集会「高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国間での捉え方の相違から学ぶ」を開催した、②The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics におけるシンポジウム“Disaster support for elderly individuals: Based on experiences in Asia”を開催した、③学会ホームページにおける学会員への国際交流に関する情報提供を企画・実施した。また、平成 26 年度の活動について、①第 19 回学術集会における招聘講演 (Dr.Harvath,TA, University of California, Davis : Mental Health Care for Family Caregivers of Older People with Dementia) を企画・実施した、②学会ホームページにおける学会員への国際交流(主に国際学術集会)に関する情報提供を実施していく予定である。

### (5) 研究論文表彰選考委員会

オンライン審査システムを構築のうえ、理事・監事・評議員による投票を行い、第 7 回研究論文表彰について、下記の論文が選考された。

- ・優秀賞：【原著】内科的治療を受ける高齢脳梗塞患者のせん妄状態出現に関連する入院初日の因子と入院 3 日間のせん妄状態の変化に影響する因子  
17 巻 2 号, 28-37, 2013.  
菅原峰子
- ・奨励賞：【研究ノート】介護老人福祉施設入所高齢者の胃瘻造設における家族の代理意思決定プロセス  
16 巻 2 号, 38-46, 2012.  
加藤真紀, 原祥子

### (6) 生涯学習支援委員会

研修事業について、①平成 25 年度基礎編は、5 回(北海道、東北、関東、関西、沖縄・九州)開催し、今後は地域ネットワークと連携し継続的に運営することが課題である、②平成 25 年度実践編は、モデル事業を 1 回(関西)開催し、実践に即した内容であることが評価された。③研修運営方法および研修内容の充実等について検討を進めている。

### (7) 災害支援検討委員会

平成 25 年度は、①第 18 回学術集会においてワークショップ「老年看護領域における災害支援の検討；東日本大震災後の福島県の被災と現状より」を開催し、学会誌第 18 巻 1 号に報告を掲載した、

②第 19 回学術集会における交流集会「被災地における連携・協働のとり方を考える；東日本大震災におけるさまざまな職種の活動より」の準備を行った、③ホームページに委員による被災地の現場報告を掲載した（今後も随時掲載予定）。また、平成 26 年度の活動として、①平成 26 年 10 月 5 日（日）に生涯学習支援委員会と共催し、生涯学習の「実践編」の 1 つとして災害支援に関する研修を東京または千葉にて開催する予定である、②この研修のなかで、本委員会が大規模災害時のフェーズを想定して作成を検討している「高齢者に特化した支援ガイド案」についても提示し意見を求める予定である。

#### (8) 専門看護師・認定看護師活動推進委員会

老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師の組織化を推進し、活動の質向上を支援することを目的として本特別委員会が設けられた。平成 26 年度の活動については、①343 名に達した認知症看護認定看護師の組織化に取り組み、認知症看護の質の向上とお互いの課題解決に向けた情報を発信する、②第 19 回学術集会において交流集会を開催し、認知症看護認定看護師の組織化や活動の方向性を討論する、③11 月 1 日に、中島紀恵子名誉会員による講演と事例検討会を予定している。

### 4. 協議事項

#### 1) 平成 25 年度決算（案）

山田会計担当理事より資料 3 を基に、以下のとおり説明があり、これを承認した。

(1) 収入の部については、会費収入：14,200,000 円（正会員 1,457 名中 1,354 名）、学会誌等販売費：343,098 円、利子・雑収入：4,006,128 円（第 18 回学術集会からの寄付金、生涯学習支援研修参加費、著作権使用料、DVD 頒布還付金等を含む）、前年度繰越金：12,886,715 円を含め、合計 31,435,941 円の収入があった。

(2) 支出の部については、学会誌作成委託費：4,269,059 円（18 巻 1・2 号）、その他編集委員会費：1,164,250 円（電子投稿・査読システム構築費含む）、理事会費：620,270 円、研究・教育活動推進委員会費：619,929 円、生涯学習支援委員会：1,941,644 円、学会事務委託費（基本事務費）：1,837,290 円、他会計繰入支出（特別会計）：4,000,000 円を含め、合計 19,823,164 円を支出し、次年度への繰越金を 11,612,777 円とした。

(3) 学会積立金特別会計については、受取利子：3,571 円、平成 25 年度一般会計からの繰入（活動積立金・その他）：4,000,000 円、前年度繰越金：16,036,818 円を含め、次年度への繰越金を 20,040,389 円とした。

#### 2) 平成 25 年度決算監査報告

泉監事より資料 3 を基に、石垣監事とともに平成 26 年 5 月 18 日に、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成 25 年度の決算書が適正かつ正式であった旨の報告があった。

#### 3) 平成 26 年度事業計画（案）

堀内理事より資料 4-1 を基に、下記 14 項目について説明があり、これを承認した。

- ①第 19 回学術集会の開催
- ②学会誌第 19 巻 1, 2 号の発行
- ③老年看護学に関わる研究、教育活動の推進

- ④生涯学習支援事業の推進
- ⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑥災害支援事業の推進
- ⑦学会組織の基盤強化・活性化にむけた活動の推進
- ⑧学術組織，看護系諸学会との連携，推進
- ⑨国内外の老年学会における活動の推進
- ⑩表彰論文の選考
- ⑪情報発信の推進（老年看護学会の立場表明の検討含む）
- ⑫20周年記念事業に向けた準備
- ⑬法人化の検討
- ⑭その他本学会の目的とする事業

#### 4) 平成 26 年度予算（案）

山田会計担当理事より資料 5 を基に，以下のとおり説明があり，これを承認した。

(1) 収入の部については，会費収入：13,800,000 円（正会員名 1,500 名中 1,380 名），生涯学習支援研修参加費：4,000,000 円，学会誌等販売費：250,000 円，著作権使用料：400,000 円，前年度繰越金：11,612,777 円を含め，合計 30,077,777 円の収入とした。

(2) 支出の部については，学術集会助成金：1,500,000 円，学会誌刊行費：4,400,000 円（19 巻 1・2 号），その他編集委員会費：710,000 円（電子投稿・査読システム運用費含む），老年看護政策検討委員会：650,000 円，国際交流委員会：750,000 円，生涯学習支援委員会／地域ネットワーク費：4,500,000 円，20 周年記念事業費：700,000 円，法人化検討事業費：200,000 円，基本事務委託費：2,500,000 円，HP 維持・更新費：400,000 円を含め，合計 22,800,000 円を支出し，次年度への繰越金を 7,277,777 円とした。

(3) 学会積立金特別会計については，受取利子：2,500 円，前年度繰越金：20,040,389 円を含め，次年度への繰越金を 20,042,889 円とした。

#### 5) 平成 27 年度事業計画基本方針（案）

堀内理事長より資料 4-2 を基に，下記 14 項目について説明があり，これを承認した。

- ①第 20 回学術集会の開催（第 29 回日本老年学会における合同開催）
- ②学会誌第 20 巻 1 号（記念号），2 号の発行
- ③老年看護学に関わる研究，教育活動の推進
- ④生涯学習支援事業の推進
- ⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑥災害支援事業の推進
- ⑦学会組織の基盤強化・活性化にむけた活動の推進
- ⑧学術組織，看護系諸学会との連携，推進
- ⑨国内外の老年学会における活動の推進
- ⑩表彰論文の選考
- ⑪情報発信の推進（老年看護学会の立場表明の発信含む）

- ⑫20周年記念事業
- ⑬法人化の検討
- ⑭その他本学会の目的とする事業

## 5. 学術集会について

### 1) 第20回学術集会

正木第20回学術集会长より、第29回日本老年学会総会と合同開催になる旨、および下記内容について説明があった。

- ・開催日：2015年6月12日（金）～14日（日）
- ・会場：パシフィコ横浜
- ・テーマ：超高齢社会において看護の可能性を問い直す
- ・演題登録期間（予定）：2014年12月5日（金）～2015年1月26日（月）

### 2) 第21回学術集会

桑田第21回学術集会长より、下記のとおり予定している旨の説明があった。

- ・開催日：2016年7月23日（土）、24日（日）
- ・会場：大宮ソニックシティ

### 3) 第22回学術集会

鈴木第22回学術集会长より、第30回日本老年学会総会と合同開催となり、名古屋市にて開催予定である旨の説明があった。

## 6. 名誉会員証授与

高崎絹子会員に対し、堀内理事長より日本老年看護学会名誉会員証が授与され、高崎会員よりご挨拶があった。

- ・平成26年度認定名誉会員：高崎絹子

## 7. 表彰

真田研究論文表彰選考委員長より、第7回研究論文表彰の発表が行われ、授賞論文2題に対し賞状および副賞（楯）が堀内理事長より贈呈された。

## 8. 閉会の辞

湯浅理事より、閉会の辞が述べられ、閉会となった。